

第13回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会

メインテーマ 精神科看護の経験

開催日：2003年5月31日(土)・6月1日(日) 会場：都市センターホテル(東京都千代田区)

学術集会大会長：日本赤十字看護大学 武井 麻子

プログラム

5月31日(土)	10:00~	受付
	11:00~12:00	大会長講演
	13:30~14:30	基調講演
	15:00~17:30	ワークショップ 一般演題発表
	18:00~19:30	懇親会
<hr/>		
6月1日(日)	9:30~12:00	ワークショップ 一般演題発表
	10:30~12:00	教育講演
	13:50~14:20	総会
	14:30~16:45	シンポジウム

大会長講演

大会長：武井 麻子 (日本赤十字看護大学)
テーマ：個人史としての精神科看護
司会：柴田 恭亮 (日本赤十字広島看護大学)

基調講演

講師：春日キスヨ (安田女子大学)
テーマ：仕事？それとも愛情？
—社会学者からみたケアの現在—
司会：武井 麻子 (日本赤十字看護大学)

教育講演

講師：宮本 真巳 (東京医科歯科大学)
テーマ：感性を磨く技法
司会：小宮 敬子 (日本赤十字看護大学)

シンポジウム

テーマ：越境する看護 —精神科ナースの経験—
シンポジスト：橋本 きみ (元北見医師会看護専門学校)
宮本めぐみ (東京医科歯科大学附属病院)
古城門靖子 (神戸大学医学部附属病院)

会場案内図



会場案内

別紙送付済み

交通案内

<地下鉄利用>

- 有楽町線 麹町駅半蔵門方面出口より徒歩4分
- 有楽町線・半蔵門線 永田町駅4番5番出口より徒歩4分
- 南北線 永田町駅9番出口より徒歩3分
- 丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅より徒歩8分

<JR利用>

- 四ツ谷駅麹町口より徒歩14分

一般演題プログラム

一般演題発表：1題発表15分 質疑15分 第1日目：5月31日(土) 15:00~17:30

第1群 看護師の経験1

座長：安藤 幸子（神戸市看護大学）

1. 精神科急性期病棟において男性看護師が体験する困難さの構造 / 松岡裕美（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士前期課程）
2. 精神科病棟看護師の怒りの経験－他病棟看護師との比較において－ / 渋谷菜穂子 水溪雅子（名古屋大学医学部保健学科）
3. 精神科看護師が入院患者から受ける暴力とサポートに関する研究 / 大屋浩美 鈴木啓子 石村佳代子 金城祥教（静岡県立大学看護学部）
4. 身体拘束に関する看護師の思い / 桜井伸子 松本佳子 八木沙織（埼玉県立精神医療センター）

第2群 急性期・短期入院患者へのケア

座長：岩瀬 信夫（県立長崎シーボルト大学）

1. 精神障害者の地域生活を促進する急性期ケアプロトコルの評価－ケースによる比較－ / 川崎真弓 矢野千里 作取久 高木圭介（菊陽病院）宇佐美しおり（熊本大学医療技術短期大学部）
2. 精神科女子急性期病棟でのグループワークの試み / 鷹野朋実（東京都立松沢病院）
3. 統合失調症患者の急性期における自己決定を促す看護の働きかけ－セルフケア要素に着目した看護記録からの読み取り－ / 福永ひとみ（川崎市立看護短期大学）岡本典子（北里大学看護学部）
4. 統合失調症患者の地域生活に向けた援助の構造に関する研究 第1報－短期入院での退院後の生活に向けたケア－ / 田上美千佳 長直子 新村順子（東京都精神医学総合研究所）大川貴子 大竹真裕美 中山洋子（福島県立医科大学）

第3群 精神科リハビリテーション

座長：末安 民生（慶應義塾大学）

1. ビジュアル・アナログ・スケールを用いた退院意欲の調査－社会資源の情報提供前後の変化－ / 濱田淳子（東京都立松沢病院）
2. 精神作業所における通所者の現状 / 宮崎徳子 高橋克弘（福井医科大学医学部看護学科）
3. 精神科作業療法が長期入院患者に与える影響－生活課程評

価チャート(KOMIチャート)を使用して－ / 吉村公一 松田孝政 中川智美（長浜赤十字病院）

4. 長期入院患者の言語表現上の変化に見られる人間的成長－言語的確認行動のつよい患者へのエピソード・メソッドによる関わりと分析を通して－ / 荒木孝治（大阪府立看護大学）

第4群 精神看護学実習

座長：永井 優子（自治医科大学）

1. 精神看護学実習における学生と患者とのコミュニケーションの変化 / 蛭名きえ（関東労災看護専門学校）
2. 精神看護学実習における「精神障害者の全人的理解」に関する成果と課題－実習終了後のレポートの分析から－ / 中尾真由美（慶應義塾看護短期大学）白石壽美子（帝京大学看護研究所）木越トヨ子（慶應義塾看護短期大学）
3. 精神看護学臨地実習自己評価の結果と今後の指導課題－精神看護学臨地実習自己評価と学生の達成感－ / 張替有美（新潟青陵大学）
4. 精神看護学実習における臨床実習指導者の抱える困難の分析 / 福井美貴 末安民生 野末聖香（慶應義塾大学看護医療学部）
5. 学習環境としての治療施設の現状－臨床指導者の役割に焦点を当てて－ / 柴田実地耕 根本裕允 六反邦裕（桜ヶ丘記念病院）出口禎子 松本弘子（東京慈恵会医科大学）

第5群 家族・地域・社会

座長：柴田 恭亮（日本赤十字広島看護大学）

1. 在宅痴呆高齢者とその配偶者の情緒的交流を促す関わり－ある家族の生活史がもてる力を生かして－ / 野村美千江（愛媛県立医療技術短期大学）大名門裕子（宮崎県立看護大学）
2. 学童疎開体験がその後の人生に与えた影響－心的外傷の観点から見た子供の戦争体験－ / 出口禎子（東京慈恵会医科大学）武井麻子（日本赤十字看護大学）
3. 市町村長同意制度の課題と看護師の立場 / 藤野邦夫（新潟大学）
4. 遺族の悲嘆過程が遷延する要因の探求－遺族アンケートの判別分析結果より－ / 栗原加代（筑波大学医療技術短期大学部）上野恭子 西川浩昭（筑波大学看護・医療科学類）

…第1日目終了

ワークショッププログラム

|| 第1日目：5月31日(土) 15:00~17:30 ||

(1) 体験グループ

武井 麻子・小宮 敬子

グループのなかで話し合ってみて、そこでどんな感情が湧いてくるのか、どんな連想が働くのかを体験するためのワークショップです。行うことは、感じたこと、頭に浮かんだことを率直に口にしてみるだけです。とくべつな知識も技術も要りません。決まったテーマもありません。何かについて討論して結論を出そうというわけでもありませんから、筋道立てて話す必要は一切ありません。人との対話、そして自分自身との対話をグループのなかで楽しんでください。ときには不安や緊張を味わうかもしれませんが、それは自分でも気づかなかった自分に気づくチャンスです。(定員20名)

(2) ナースによる心理教育グループの運営

羽山 由美子 ほか

今年は、精神科病棟で心理教育グループを新たに実施してみようと計画していらっしゃる方たちを対象に、プログラム案作成をご一緒に考えていきたいと思ひます。

必ずしも服薬教育のみに限定することなく、それぞれのニーズに応じて、なにをテーマとするか、どう組み立てるか、教材をどう準備するかなど、話し合いたいと思ひます。

経験者の皆様にもぜひご参加いただき、ノウハウの交換ができることを希望します。(定員30人)

(3) 精神看護学の教育展開：
臨地実習における学校と
実習施設との連携

—問題解決への関わりに向けて—
瀧川 薫・片岡 三佳

臨地実習では、基本的に教員は教育計画全体および学生の学習進捗状況を巨視的に把握しながら実習を推進する役割をもち、一方、臨床指導者は日常の看護業務の中で具体的な患者ケアを通して実習指導を行う役割を担っています。両者が効率よく機能するためには、どのような点に留意すべきなのでしょう。そのことを、みなさんと共に考察していきたいと思ひます。



(4) 看護者が行う地域リハビリテーション

—即興劇：プレイバック
シアターによるケアの試み—
田中 美恵子・濱田 由紀

精神障害者小規模作業所「ひあしんす城北」(臼井よし子氏他)をお招きして、看護者ならではの地域支援について、参加者の皆様とご一緒に考えていきたいと思ひます。臼井氏は、作業所・グループホームを運営し、演劇活動を中心に据えたケアに積極的に取り組まれています。今回はその中でも「語りをもとにした即興劇」として世界各地で親しまれている「プレイバックシアター」の一連の手法をご紹介します。プレイバックシアターの根本精神は「語り手が自らのストーリーを語り、劇を通してその場にいる全員でそれを分かち合う」というものです。当日はプレイバックシアター研究所の羽地朝和氏のご協力も得て楽しいワークショップを企画しています。皆様どうぞご参加ください。

(5) リラクゼーション：

ボディーマインドの結びつき

五十嵐 透子

医療や保健、教育のなかでリラクゼーションの導入においては、誰にでも、どのような状態にも効果的というのではなく、アセスメントの上に行われる必要があります。そしてその効果を評価することも必要なことです。今回は、年齢や健康障害の種類などの対象別にリラクゼーション法を考えてみたいと思ひます。また、過去のワークショップに参加され活用されておられる方々で、問題点や疑問などを含めてより効果的な介入を話し合う機会をもちたいと思ひます。問題点や疑問、あるいは事例を求めます。5月20日までに下記のアドレスまでご連絡下さい。igarashi@juen.ac.jp

<使用文献>リラクゼーションの理論と実際：ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門(2001)。医歯薬出版。

第2日目：6月1日(日) 9:30~12:00

(1) 長期在院患者の退院促進 — 末安 民生・酒井 孝夫 公文 一二・大塚 恒子

わが国の精神医療の歴史は、精神障害者を医療施設に収容することを中心に行われてきた。欧米諸国が法的、制度的に地域生活支援モデルに転換した今日においても精神障害者の医療・福祉施策についてはその大部分を医療・施設モデルに依拠している。厚生労働省社会保障審議会の精神障害分会は昨年12月、「何らかの援助があれば退院できる患者」約7万2千人の患者を10年以内に退院、社会復帰させることを明記した「今後の精神医療の方向性について」をまとめた。報告書は日本の精神医療を、地域生活支援型に切り替えていくために、今後、在宅福祉サービスや精神科救急システムの整備を強化することになったが、ここでは、「条件が整えば退院可能な患者」に対してどのような視点と方法でケアを提供することによって退院が可能になるのか、そのきっかけと背景を探り、患者の退院後の生活が安定しながら継続できるような生活支援のための具体策についても検討したい。

(2) 初心者精神看護専門看護師に求められる能力と資質

野末 聖香

精神看護専門看護師の認定制度が始まって7年が経過した。その数は未だに少ないが、活動に関する認識は高まりつつある。そして、精神看護専門看護師になりたいと希望する者、専門看護師の雇用を考えている看護管理者も増えてきている。ところが、専門看護師への期待が高ければ高いほど、初心者に対しても熟練した専門看護師のような能力が期待される。初心者である専門看護師には、どの程度の能力と資質が求められるのだろうか。その力を伸ばし熟練した専門看護師に育てていくためには、何が必要なのだろうか。教育や臨床の現実的状況を踏まえて、検討したい。(定員30名)

(3) 事例検討 — 薬物依存症患者の理解と アプローチ— 平澤 久一・小出水 寿英

今回は、大学中退までアメリカ留学を続ける中で薬物依存に陥った男性、覚醒剤精神病患者の事例です。最初マリファナを覚え、15~16歳頃から覚醒剤に手をだし、そのために大学中退となる。帰国し仕事に就くが、再度渡米しスピードを使用中に精神症状が出現し、警察に保護され入院となる。その後両親と共に帰国しそのまま入院。退院後も断薬できず再入院となる。

この事例について、生育歴をふまえ、覚醒剤に手をだすに至った原因や経過から、覚醒剤患者の心理の理解とアプローチについて参加者全体で議論し、検討します。(定員30名)

教育活動委員会主催 第12回ワークショップの報告

地域精神医療との連携 — 新たな精神保健看護を目指して —

理事 瀧川 薫

平成14年度2回目にあたる地方ワークショップは、滋賀医科大学において「地域精神医療との連携—新たな精神保健看護を目指して—」というテーマで、平成15年1月11日に開催されました。年始早々でしかも3連休初日の土曜日であったにもかかわらず、熱心な参加者をお迎えして展開することができました。驚いたことに、非会員の臨床家や精神科勤務を志す学生さんも多くみられ、近畿圏一円はもとより遠くは愛媛県からのご参加もありました。

まず、最初に瀧川が精神障害者に関する施策変更を迫られることになった前提として、最近の法整備の経緯と地域社会の変容について同時進行的に概観したうえで、諸外国と日本との比較を行いながら解説を加えていきました。次に、日本赤十字広島看護大学の平澤先生から、医療供給体制の歴史的変遷をふまえたお話しの後、現在の医療環境を取り巻く経済的状況・医療改革の方向性等についての説明と、目の当たりに経験されてきた近畿と中国圏での精神障

害者福祉の状況、特に中間施設の設置とその運営の現状に関する詳細な報告があり、今後の課題についても明示されました。そして最後に、神戸大学の川口先生により、①地域精神保健福祉活動とは、②なぜ地域精神保健福祉活動を推進するのか、③実証的研究に基づく報告(在宅精神障害者を支えている専門職者の考え・地域に住む精神障害者の生活と意見)、④長期入院精神障害者の社会復帰に対する看護師の関わり方(疎外している関わり方・退院に向けて取り組んだ関わり方)、⑤これからの地域精神保健福祉活動に重点をおいた精神科看護師の援助について、報告がありました。

その後のフロアとの質疑応答では、福祉関係者も加わり非常に興味ある意見や質問が数多く交わされ、課題を残しつつも有意義な時間を共有することができたと思います。

これからも是非、皆さまの積極的なご参加をお願い申し上げます。

一般演題プログラム

一般演題発表：1題発表15分 質疑15分 第2日目：6月1日(日) 9:30~12:00

第6群 看護者の経験2

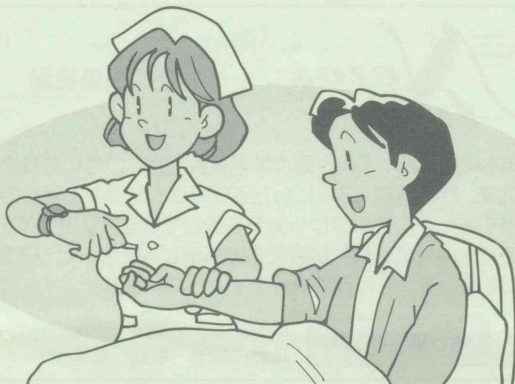
座長：川口 優子 (神戸大学)

1. 患者の自殺に直面した看護者の対処行動の分析—精神科看護者がインタビューで語った内容から— /寺岡征太郎 (碧水会長谷川病院) 柴田真紀 (北里大学看護学部)
2. 精神科身体合併症に気づいた看護師の背景と気づきの類型 /石橋照子 (島根県立看護短期大学) 成相文子 吉田厚子 (島根県立湖陵病院) 岡須美恵 細川つや子 (吉備国際大学)
3. 慢性期閉鎖病棟で働く看護者の意識・患者観—看護者の語りから— /瀬野佳代 (国立看護大学校)
4. 精神科看護者のバーンアウトと職場ストレス要因についての検討 /瀨崎輝美 所村芳晴 福島秀行 松本敦子 桶谷玲子 (石川県立高松病院) 谷本千恵 林みどり 北岡和代 (石川県立看護大学)
5. Rathus assertiveness schedule 日本語版開発に関する研究 /鈴木英子 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程) 香月毅史 (東京医科歯科大学保健衛生学研究科健康情報分析学) 叶谷由佳 (神戸市看護大学)

第7群 患者の経験

座長：阿保 順子 (北海道医療大学)

1. 薬物依存症者にとっての入院体験の意味 その1—1回の入院体験を有する者の語り— /寶田穂 (大阪市立大学看護短期大学部) 武井麻子 (日本赤十字看護大学)
2. 慢性的統合失調症にある人の自我発達性の性質とその経過 /遠藤淑美 (名古屋大学医学部保健学科)
3. 長期入院精神障害者が語る入院生活と社会復帰 /武藤教志 (社団法人岐阜病院)
4. 精神分裂病者の入院体験からみた印象に残る看護者の行為 /片岡三佳 瀧川薫 (滋賀医科大学)



第8群 精神と身体

座長：若狭 紅子 (東京女子医科大学)

1. 精神科入院患者へのマッサージに映し出された無意識のコミュニケーション /寺澤まゆみ (愛知医科大学看護学部)
2. 慢性疾患患児の自尊感情 /林みどり (石川県立看護大学)
3. 同種骨髄移植を受けたケースの体験に関する記述的研究—同種骨髄移植を受けることの意味— /松田光信 (岐阜県立看護大学) 羽山由美子 (聖路加看護大学)
4. 舌癌患者とのかかわりについて—麻薬・鎮静剤を多用する現状を考える— /佐藤睦恵 (大阪赤十字病院)
5. 精神科病棟における身体合併症の実情—新潟県の場合— /藤野ヤヨイ 張替有美 (新潟青陵大学) 藤野邦夫 (新潟大学)

第9群 看護学生

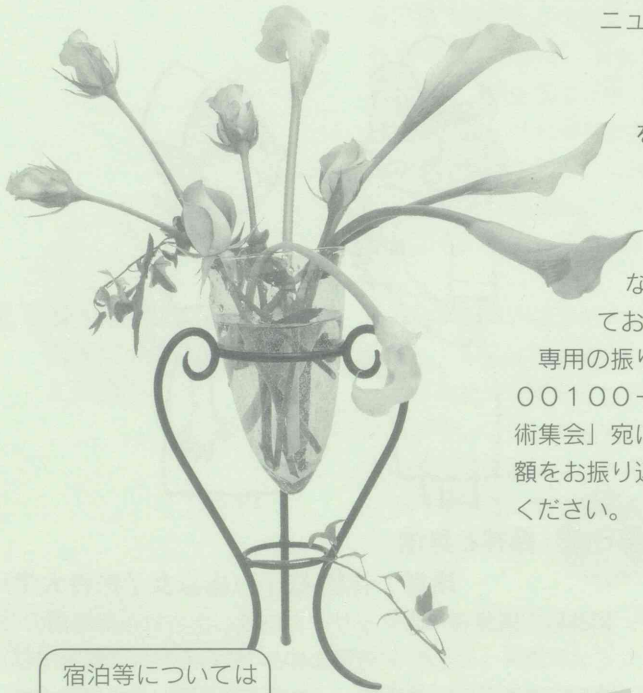
座長：式守 晴子 (東海大学)

1. 看護学生による〈当事者研究〉を支える体験的グループワーク—精神看護学特論での試み— /佐伯恵子 宮崎洋子 (大阪府立看護大学)
2. 看護学生のテスト前の不安状態と自己効力感 /瀧井ヒロミ (神戸常盤短期大学)
3. 看護学生が描く「精神障害者像」の変化に関する研究—講義と実習の関連から探る— /木下八千代 (京都桂看護専門学校) 松田光信 (岐阜県立看護大学)
4. 看護学生生活におけるグループ体験 /榎恵子 (日本赤十字看護大学) 遠藤伸子 (女子栄養大学)
5. 動物が看護学生に及ぼすソーシャルサポートと自己肯定意識との関連 /西野弘員 間裕美子 間文彦 (広島国際大学)

…第2日目終了

平成15年度

● 総会 ● 学術集会 ● 懇親会 ● の申込みについて



宿泊等については取り扱っておりませんので、各自でお願い致します。

ニュースレターに「参加申し込みハガキ」が同封されています。総会・学術集会に参加される方は、「参加申し込みハガキ」を学術集会事務局宛に5月20日(火)までにお送りください。なお、総会を欠席される方は署名捺印し投函してください。

また、振り込み用紙は前回のニュースレターに同封していますが、参加される方は5月15日(木)までに入金してください。学術集会参加費は、会員8,000円、非会員9,000円、学生3,000円となっています。懇親会に参加される方は、6,000円の会費を合わせてお送りください。

専用の振り込み用紙がない場合は、郵便局備え付けの用紙で「口座番号：00100-9-570024 加入者名：第13回日本精神保健看護学会学術集会」宛に会員・非会員・学生、懇親会参加の有無を明記の上、その合計金額をお振り込みください。また、学会当日に振り込み領収書の控えをご持参ください。

第13回学術集会に関するお問い合わせ

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学精神保健看護学研究室内

第13回日本精神保健看護学会学術集会・企画委員会

担当：小宮、榊、佐藤 FAX：03-3409-1069

(お問い合わせはファックスでお願いします)

日本精神保健看護学会第13巻への投稿〆切は平成15年9月10日(消印有効)となっております。投稿宛て先が(財)日本学会事務センター内に変更になりました。その他、原稿種類、原稿枚数、引用文献の記載様式等につきましても変更しておりますので、学会誌第11巻の投稿規定をご確認のうえ、奮ってご投稿いただけますようお願いいたします。

投稿宛て先

〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター内・日本精神保健看護学会

編集委員会

からの
お知らせ

—学会誌第13巻投稿〆切—



学会へのお問い合わせについて

学会への入会手続き、学会誌のバックナンバーのお求め等に関するお問い合わせ、住所や所属の変更につきましても直接、下記までご連絡をお願いいたします。

〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター 日本精神保健看護学会事務所

Tel:03(5814)5801 Fax:03(5814)5820

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
letter*

編集後記

早いもので、あっという間に学術集会ご紹介の号になりました。基調講演、教育講演、2日にわたるワークショップと多くの演題、盛りだくさんの内容に今から刺激を受けています。そして、久しぶりの友人の元気な顔に出会えるのも楽しみです。どうぞ皆様にとっても爽り多い2日間でありませうように。(E)

編集委員

田中美恵子 濱田 由紀
江波戸和子 若狭 紅子